

【兵庫県太子町】

校務 DX 計画

本町では、令和 2 年度に実施した 1 人 1 台端末の整備に際しては、授業支援ソフトやデジタルドリルのほか、汎用のクラウドツールを活用し、授業や家庭学習の ICT 活用を図ってきました。

また、教職員についても同様に 1 人 1 台端末を整備し、積極的なソフトウェア等の利活用を図っています。

校務のデジタル化による教職員の事務負担の軽減を図りながら、校務・事務の効率化の推進、働きがいのある学校づくりの推進に向けて取り組む必要があります。平成 30 年度に校務支援システムを導入し、出欠等の各種管理をシステムで行っている一方で、学校現場においては、依然として紙媒体の書類が多く、校務・事務の円滑化及び効率化の観点から、各種デジタル化、ペーパーレス化を進める必要があります。

これらの本町の実態や社会情勢を踏まえ、校務 DX に係る具体的な取組を次のとおり定めます。

1 校務支援システムのクラウド化、ゼロトラスト化

本町の校務系ネットワークは、児童生徒の個人情報等を取り扱うことから、閉域網で運用することによりセキュリティ面が強化されている一方で、今般の働き方改革による場所を選ばない働き方に相反しています。

また、今後発生が想定される山崎断層帯地震や南海トラフ地震等の大規模災害等に対する備えとして、業務継続性の維持が求められています。

このため、強固なセキュリティを確保しつつ、校務支援システムのクラウド化、ゼロトラスト化について調査・研究を進めます。

2 ペーパーレス化の推進

学校現場においては、教職員内の情報共有を容易にできる環境を構築し、教育委員会と各学校間での情報共有については、電子メール等により行う運用となっているほか、保護者への連絡については、アプリの活用によりペーパーレス化が図られています。

しかしながら、会議や研修等においての資料のデジタル化、端末を活用した会議や研修等については、ICT の活用が一部に限られています。

ペーパーレス化は、印刷にかかる経費と時間の削減が見込まれ、教職員の負担軽減に寄与するものであることから、ペーパーレス化をより一層進めます。

また、押印の廃止に向けて、クラウドサービスの活用や書類の電子化等、教職員の意見を聴取しながら、検討を進めます。

3 校務用及び教育用ネットワークの統合

本町の教育ネットワークは、児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務用ネットワーク」と児童生徒が教育活動で利用する「教育用ネットワーク」の2つに分離し、インターネット経由で児童生徒の個人情報にアクセスできない構成となっています。

教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化をめざし、アクセス制御によるセキュリティ対策を講じた上で、校務用及び学習用ネットワークの統合について調査・研究を進めます。

4 業務支援ツールを活用した業務効率化の推進

業務効率化による教職員の負担軽減を図るため、既存の業務支援ツールについて、研究するとともに、当該ツールを最大限活用できるよう教職員向けの研修会を開催し、教職員のICT活用スキルの向上をめざします。

また、コミュニケーションツールについては、児童生徒とのリアルタイムの連絡や学習状況の把握、評価の充実、教職員間の情報共有による効率化を進めます。